

2学期初めての学年集会

第1学年担任

10月16日(月)5校時目に学年集会を行いました。2学期がスタートして学校生活にも慣れてきた時期にみんなで集会活動に取り組むことで、より学校生活を楽しく豊かにすることができます。全クラス交えて、「リーダー探し」「何でもバスケット」「ドンじゃんけん」を行いました。どのゲームも大盛り上がりで、どんなお友達とも楽しく活動できる子供達の姿を見て、ほんわか温かい気持ちになりました。

一緒に活動をしてきたお友達とお互いのがんばりを認め合ったり、学年の成長をみんなで振り返ったりできる集会を開いて、気持ちよく生活できるといいなと思っています。

今回の集会の経験を生かしながら、「みんなでやると楽しい」経験を重ねることで、「これからもがんばるぞ」「みんなと一緒に楽しみたい」と意欲をもてるようにしていきたいと考えています。



子どもたちが学び合う喜びを感じられる国語科の学習を目指して ～子どもたちを引き付ける指導の工夫～

研究推進委員会

本校では、令和4・5年度に調布市教育委員会研究推進校として、国語科の学習を中心として研究を進めてきました。その研究の成果を発表するために、10月13日(金)に研究発表会を実施しました。

子どもたちが主体的に考え学ぶために、どのような授業をすればいいのだろうかと教職員一丸となって考えてきました。本校の授業改善の中心となってきたのが「ずれ」と「教師の出」です。

『寒いね』と話しかければ『寒いね』と答える人のいるあたたかさ

(引用：俵万智「サラダ日記」)

この一文を読んだ後に、「2人はどんな関係性だと思いますか？」と問われたら皆さんはどんな関係性を想像しますか？「友達」と答える方もいらっしゃるれば、「親子」と答える方もいらっしゃると思います。「どこだと思いますか？」と問われても、人によって答えは違ってくるでしょう。つまり、各自が想像したことには「ずれ」が生まれます。「ずれ」が生まれると、人は自然と「どうしてそう思ったの？」と聞きたくなります。そのような「どうしてそう思ったの？」と聞きたくなるような「ずれ」を生み出せるような授業を考えてきました。

また、「ずれ」が生み出せたとしても、教師が子どもたちの発言を整理していく必要があります。このようにいつ、どのように発言を整理していくかを「教師の出」と呼んでいます。子どもたちの学びの様子をじっくりと観察しながら「教師の出」を行っています。

研究発表を終えて、研究としては一区切りです。しかし、子どもたちと創る授業は毎日あります。今後も、子どもたちが学びに向かえるような授業を考えていきます。